

# いちご

## 1 作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	<冬どり> 促成栽培 _____ -  _____											
	<夏秋どり> _____											

: 親株定植

: 定植



: ハウス被覆

: 収穫



冬どり栽培(甲府市)



かいサマー

(山梨県オリジナル

夏秋どり品種)

## アピールポイント

- ・出荷時期: 12月上旬～10月下旬。
- ・冬どり栽培、夏秋どり栽培を組み合わせることで長期出荷が可能です。
- ・冬どりは、主に平坦地で行われ、市場出荷の他、観光いちご狩りや直売など販売形態は多様化しています。とりわけいちご狩りや直売は、消費者の安全安心志向を反映して、農薬を削減した栽培方法に取り組んでいる生産者も少なくありません。
- ・夏秋どりは、夏季冷涼な高標高地で行われており、国産イチゴの供給が少ない時期に供給できる利点があります。販売は契約出荷と観光いちご狩りがあり、産地によって異なります。
- ・夏秋どりでは、平成21年より、山梨県のオリジナル品種かいサマーを本格導入します。かいサマーは従来品種と比較し、糖度が高く、形もよい品質の高さが魅力です。

## 2 各作型のポイント

### (1) 冬どり栽培

品種は章姫、紅ほっぺ、さがほのかなど、多岐にわたります。

健全な親株を確保し、育苗期の予防散布を徹底します。資材消毒、排水対策などを行い、窒素過多や密植、灌水のやり過ぎによる過湿を避けます。近年問題となっている炭そ病が発生した場合は、発生株はもちろんのこと周囲の株もすぐに除去します。また太陽熱消毒などの土壌消毒を行います。

花芽分化は低温・短日・低窒素で起こります。収量の安定に向けて、花芽分化した健苗を適期に植え付けます。地床苗は9月上旬から、ポット苗は9月中下旬からが植え付け時期の目安です。

### (2) 夏秋どり栽培

品種はかいサマーやエラン(種子繁殖)を用います。

高温期の栽培となるため、一度病害虫が発生すると致命的な状況を招く恐れがあるので、予防散布を徹底します。また、多肥を避け、摘葉や芽の整理を行い過繁茂にならないようにすることも病害虫防除に有効です。

夏イチゴは業務用需要が高いため、摘果を確実にし、大粒果を多く収穫するよう心がけます。

かいサマーは従来品種よりも生育が旺盛であるため、従来より元肥を控え、こまめな摘葉を行うなど樹勢が強くなりすぎないように管理します。

### (3) 各作共通

イチゴの主要な病害はうどんこ病、炭そ病、疫病、灰色かび病などです。主要な虫害は、アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類などです。定期的な予防散布はもとより、ハウス内はもちろんハウス周りの除草の徹底、防虫ネットの利用、ハウス内への病害虫の持ち込みに注意するなど、総合的な病害虫の発生抑制を心がけます。夏秋栽培においては、特にハダニ類、アザミウマ類、タバコガ類等、害虫の多発生が考えられます。

また、微生物製剤や天敵の利用、天敵に影響の少ない農薬の使用など化学農薬の低減や同一薬剤・同系薬剤の使用を控え、病害虫の抵抗性発達を起こさないような散布が必要となります。